

## 大会主題について

### 1 大会主題

#### メディア・ICT で実現する主体的・対話的で深い学び

### 2 主題設定の理由

現代のネットワーク社会においては、ロボットや人工知能といった技術革新により、産業のあらゆる分野で急激に変化し続けている状況が見られる。また、スマートフォンやSNSは、私たちのコミュニケーションの仕方や人間関係・社会集団の在り方を大きく変えている。学習指導要領では、このような予測困難な時代に児童生徒一人一人が未来の創り手となるよう、「何を学ぶか」（知識・技能）も重視しつつ、それが生きて働く知識となるために「何ができるようになるか」（資質・能力）を重視し、資質・能力の「三つの柱」を偏りなく実現することとしている。それを踏まえ、私たちは、児童生徒の資質・能力の育成に向けてICTを最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる必要がある。

現在、GIGAスクール構想の実施により、児童生徒1人1台の情報端末が配備されている。これまでも、視聴覚教育や放送教育においては、全ての教室でICTを生かし、メディアを活用し、視聴覚的手法を取り入れた学びが日常的に展開され、児童生徒に生きる力を育む教育が展開されることを目指してきた。学校現場においては、GIGAスクールの実現に向け、本部会でを行うメディアや児童生徒の情報端末を含めたICT活用の実践的な研究とその成果の共有が求められている。

「メディア」には、放送番組や映像教材、デジタル教科書・デジタル教材などのコンテンツがあり、教科の本質に触れられる優れた教材が数多く存在する。「ICT」には、ネットワーク端末、電子黒板、実物投影機などの機器や、協働学習や個に応じた学びを支援するアプリケーションなどがある。平成28（2016）年の『2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会』最終まとめでは、ICT活用の特性・強みとして3点挙げられた。

- ① 多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することなどができ、カスタマイズが容易であること（観察・実験で得たデータなどを入力し、図やグラフ等を作成するなどを繰り返し行い試行錯誤すること）
- ② 時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超えること（距離や時間を問わずに児童生徒の思考の過程や結果を可視化する）
- ③ 距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという、双方向性を有すること（教室やグループでの大勢の考えを、距離を問わずに瞬時に共有すること）

これらの特長を踏まえ、その基盤となっている情報活用能力を着実に育成しながら、児童生徒自身がICT、特に情報端末を学びの道具として活用することが重要である。

私たち教師に求められるのは、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、これらのメディア・ICTの特性を生かした学習過程をデザインすることであろう。教科単元の本質を見極めながら、あるいは教科を横断しながら単元を構想する。児童生徒の思考過程や関わり合いをイメージしながら必要となる資質・能力を見極め、育成するための工夫や努力が必要になる。

本大会は、Zoomによるオンライン開催とし、省力化・効率化を図りながら実施する。実践発表や記念講演等によって、主体的・対話的で深い学びが児童生徒の中に生起し、メディアやICTがその深まりに大きな役割を果たすことが確認され、今後の教育活動に生かされることを期待するとともに、今後持続的に大会を運営していくための知見も積み重ねていきたい。